



医師になる

The future is yours.

2026年版



目

次

● ころろざし育成セミナー参加の皆さんへ	1
● 病院長からのメッセージ	2
浜松医科大学医学部附属病院	病院長 竹内 裕也 先生
順天堂大学医学部附属静岡病院	院長 山本 拓史 先生
静岡医療センター	院長 榊井 良裕 先生
静岡県立静岡がんセンター	病院長 小野 裕之 先生
沼津市立病院	病院長 伊藤 浩嗣 先生
富士市立中央病院	院長 児島 章 先生
静岡県立こども病院	院長 坂本喜三郎 先生
静岡県立総合病院	院長 井上 達秀 先生
静岡県立ころろの医療センター	院長 大橋 裕 先生
焼津市立総合病院	病院長 風間 伸介 先生
藤枝市立総合病院	院長 中村 利夫 先生
島田市立総合医療センター	院長 和田 英俊 先生
市立御前崎総合病院	病院長 鈴木 基裕 先生
菊川市家庭医療センター	センター長 松田 真和 先生
中東遠総合医療センター	企業長 宮地 正彦 先生
袋井市立聖隷袋井市民病院	病院長 林 泰広 先生
浜松ろうさい病院	院長 江川 裕人 先生
浜松赤十字病院	院長 俵原 敬 先生
総合病院聖隷浜松病院	院長 岡 俊明 先生
浜松市国民健康保険佐久間病院	病院長 三枝 智宏 先生
● 医師になるための道・医師としての道	22
● 大学医学科における学習の目標	23
● 我が国の医療の課題	25
● 静岡県の医療の現状	26
● 静岡県で活躍したいみなさんへの支援	28
● 本小冊子を読んで	29



こころざし育成セミナー参加の皆さんへ

この小冊子を手にとっていただいてありがとう！

医療は「衣・食・住」と同じくらい、私たちの生活に欠かせない大切なものです。人が安心して暮らすために、昔から人々の生活に深く関わってきました。今では日本の平均寿命が84歳を超えて、医療の重要性はますます高まっています。

皆さんにもなじみのある鎌倉時代の随筆『徒然草』には、現代にも通じる大切な考えが数多く記されています。第123段には、医療の価値について述べられた一節がありますので、ぜひ目を通してみてください。

この小冊子は、皆さんが医師という仕事をより深く理解し、将来その職業に就いて自分を育ててくれた地域に貢献したいという気持ちを持つきっかけになればと思い作成しました。

ではまず、静岡県内の20病院でご活躍されている先生方から皆さんへのメッセージをご紹介します。





浜松医科大学医学部附属病院

病院長 竹内 裕也 先生からのメッセージ

もしあなたのご家族が風邪をひいて熱を出したとしましょう。あなたはきっと心配しますよね。もしかしたらご家族のためにご飯を作ったり、薬局で薬を買ってきたりするかもしれません。またたとえば、バスや電車の中で具合の悪そうなお年寄りがいたとします。その時、あなたはきっと何とかしてあげたいと思いますよね。

もし周りに困っている人がいたら何とかして助けてあげたいと思う、これは人間の本能の1つかもしれません。しかし、様々な体や心の不調（病気やけが）を治すためには専門的な知識と豊富な経験が必要となります。医師という仕事は科学的知識や技術を駆使しながら、病気やけがで苦しんでおられる患者さんを癒し、命を守る大切な職業です。

医学の進歩は日進月歩であり、患者さんに最新の医療を提供するためには医師になってからも生涯学び続けることが必要です。時には苦労もありますが、一人ひとりの患者さんと向き合うなかで、多くのことを学び、自分自身も成長することができます。私は外科医ですが、自らの手で難しい手術を成功させ、患者さんの病気を治すことができた時の喜びは何ものにも代えがたく、患者さんからの「ありがとう」の一言には大きなやりがいを感じます。

医師には病院で働く以外にも、研究や医療行政、国際医療など活躍の場がたくさんあります。人の役に立ちたい、誰かのために自分を磨き挑戦し続けたいという気持ちがあるなら、医学という道はとても魅力的な選択肢です。今の努力が未来の誰かの命を救う力になります。

ぜひ、医師を目指すことを前向きに考えてみてください！



病院長 竹内 裕也



順天堂大学医学部附属静岡病院

院長 山本 拓史 先生 からのメッセージ

私は 59 歳の新米院長です。

今からおよそ 40 年前、高校生だった私は「医師になりたい」と思い、医学部を受験しました。楽しい医学部生活を経て、卒業後は母校の脳神経外科に入局し、気がつけば 35 年が経っていました。

病院には定年がありますが、医師という仕事そのものには明確な定年はありません。体力と気力が続く限り、社会や患者さんに関わり続けることができます。一生をかけて取り組める仕事に出会えたことは、とても幸せだったと感じています。

もちろん、この 35 年間は決して平坦ではありませんでした。救急医療の現場で緊張感の中に身を置き、患者さんやご家族とともに喜び、時には悩み続けたこともありましたが、それらは 40 年前の高校生だった私には想像できない世界でした。

皆さんも、医学部での勉強や研修医としての経験を通して、自分の進む道を決めていくことになると思います。迷った時には、「なぜ医師を目指したのか」という初心を思い出してください。

また、学生時代は勉強だけでなく、部活動や友人との時間も大切です。人との出会いや経験は、医師として必ず皆さんの力になります。ぜひ、有意義な学生生活を送り、将来「医師になって良かった」と思える人生を歩んでください。



院長 山本 拓史



独立行政法人 国立病院機構

静岡医療センター

院長 榊井 良裕 先生 からのメッセージ

救急医から医学部進学をめざす高校生におくるメッセージ

医学部合格、そしてその先にある命の最前線を目指す皆様へ。いま机に向かって必死に頑張っている皆様に、救急医という立場から言葉を送らせてください。

覚悟を持って、挑んで下さい。医療の世界はドラマで見ると華やかな瞬間ばかりではありません。そこにあるのは、文字通りの「生と死の境界線」です。ついさっきまで普通に生きていた人が突然の事故や病気で命の危機に瀕する状態に陥り、皆さんのもとに運ばれてきます。そんな状況では一分一秒の判断の迷い、行動の遅れが患者さんの未来やそのご家族の人生を永遠に変えてしまいます。皆さんは凄まじいプレッシャーのもと、時に怒号も飛び交う環境の中で押し寄せる疲労に負けず、正確に過酷な仕事をこなさねばなりません。そうしなければ患者さんの命が失われるのです。さらに、時にはどんなに一所懸命頑張ってもどうしようもない無力感や敗北感に打ちのめされることさえあります。

でも最悪を希望に変えることができます。つらい仕事です。でも、心肺停止で運ばれてきた患者さんの心臓が、皆さんの力、チームの連携によって再び鼓動を刻み始め、絶望に暮れていた家族の目に再び希望の光が灯ることを想像してください。その瞬間の感動は他の何にも代えられません。魂が震える経験です。私たちの仕事は、誰かの「人生で最悪の1日」を「最良の奇跡の1日」に変えることができるのです。

今の勉強はすべて「未来の誰かの大切な命」に直結しています。受験勉強は孤独で時に退屈かもしれません。しかし今皆さんが机で流すひとすじの汗は、将来あなたのもとに運ばれてくる患者さんの血の一滴に等しいくらい重要です。集中力を切らさずに問題を解く粘り強さは多忙な極限状態においても正しい判断を下す力となり、基礎を何度も叩き込む作業は一瞬の判断が生死を分ける現場での確かな知識の土台になります。プレッシャーに耐え抜く経験は、修羅場でもパニックにならずにチームを引っ張る強さに繋がるでしょう。

皆さんを仲間として迎える日を待っています。医学部に入ることはゴールではなくスタートラインに過ぎません。「誰かのために、自分のすべてを懸けて戦いたい」「修羅場の中でも仲間と共に少しでも多くの命を救いたい」と本気で願うなら、願い続けるなら、その時には再びお会いできるでしょう。同じ目的を持った仲間として。それを今から、心から楽しみに首を長くして待っています。



院長 榊井 良裕



静岡県立静岡がんセンター

病院長 小野 裕之 先生からのメッセージ

医師を目指す皆さんへ

医学部進学を志望する理由はさまざまだと思います。

大学の同級生には「病める人々を治したい！」という高尚な気持ちで医師という職業を目指した者もありました。でも一方では「親が医者だから」とか「医学部に入れる成績だったから」というものもいるのです。

私はといえば「自分は9時5時勤務の生活は向いてない、医者なら自由に動けるかな」というあまり褒められない理由でした。そんな私でしたが卒業して消化器内科医となり、人体の不思議さ、精妙さ、そして複雑さに圧倒されながらも惹かれ、自分の診療が目の前の患者さんに直接影響することの重大さに恐れおののきながらも、強い魅力を感じて飽くことはありませんでした。臨床医は患者さんに学び、治った患者さんとともに喜び、ときに治せぬ自分に苦しむ泥臭い職業です。でもまた生まれ変わっても臨床医になりたいと今は思います（でも次は外科医になりたいな）。

そんな臨床医を目指すもよし、一方で医者にはいろいろな道があります。遺伝子工学や生理学、生化学、分子生物学などの基礎研究者として生きる者、保健所など公衆衛生に従事する者、国の医療行政を変えてやると厚労省の技官となる者、日頃皆さんがイメージする臨床医以外にもさまざまな選択肢があります。

静岡がんセンターも国公私立、さまざまな大学からスタッフが集まっています。

いつか、皆さんと「静がん」で一緒に働けたらすてきですね。



病院長 小野 裕之



沼津市立病院

病院長 伊藤 浩嗣 先生 からのメッセージ

医師を目指す皆さんへ

皆さんは、なぜ医師を志すことを考えたのでしょうか。

皆さんが目指す医師とは、患者さんの生活や人生のみならず、そのご家族を含めた周囲の方々にも多くの影響を与える「やりがい」がある一方、責任ある職業になります。

現実には、皆さんが思い描いている理想とは異なることも多い職業です。

しかし、この冊子を手にした皆さんには「医師」という目標に向かって熱い気持ちと高い志があることでしょう。目標を見失わず、夢に向かって邁進して下さい。応援しています。

当院は、静岡県東部地域の基幹病院として、様々な患者さんを受け入れています。静岡県東部は、慢性的医師不足であり、人口減少や少子高齢化なども相まって、地域医療は縮小していく可能性があります。医師の働き方改革も始まり、医療従事者を取り巻く環境が大きく変化するなか、是非とも、皆さんの力が必要です。

近い将来、皆さんと共に仕事ができることを楽しみにしています。



病院長 伊藤 浩嗣



富士市立中央病院

院長 児島 章 先生からのメッセージ

医師になるためには、まず大学医学部に入学して6年間の修学ののち、医師国家試験を突破し、医療行為をおこなう国家資格を得ることから始まります。しかし、ここがゴールではありません。さらに生涯にわたり技術を身につけ、見聞を広める努力を続けなければならない、医師の道は決して容易なものではありません。しかし、その先には人の苦痛を癒し、命を救い、人生を支えるという偉大な使命があります。皆さんが医学を学ぶ日々は、膨大な知識を習得し、技術を磨くだけでなく、人としての自己の成長を促す時間としても大切です。患者の苦しみに共感し、その不安を和らげることも医師としての重要な役割であるからです。

医師の仕事は「診療」に留まりません。後進の育成のための「教育」、医学上の疑問点を解決するための「研究」も大切な仕事となります。医師になってからも、人生の多くの時間をこれらの仕事に費やすことになります。一方で、医師になってから得られる喜びと充実感は計り知れなく大きなもので、それは多くの人々への喜びと希望につながることでしょう。医師になるまでの道に、そしてそのあとからさらに歩み続けることに誇りを持ち、一步一步前進していただきたいと思います。



院長 児島 章



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

静岡県立こども病院

院長 坂本 喜三郎 先生 からのメッセージ

医師になる。

その“こころざし”を持ち、“こども”というキーワードで繋がっている方がこのページを読んでいることと思います。

“ようこそ！小児の総合病院：静岡県立こども病院へ”

ここは、小児科医が半分、小児科医ではないけれども小児に対する医療（ほとんどの外科系の科と麻酔科、放射線科、病理科など）に携わる医師が半分で構成されている、静岡県小児医療“最後の砦”の役割を担っている病院です。

何を隠そう、私自身も小児科医ではありません。心臓血管外科医として先天性心疾患に対する外科治療を専門にしております。

『なぜ、こどもの医療にハマったのか？』ですって？

なぜって・・・こどもは、未来そのものだからです。

こどもが元気になれば、親が元気になります。こどもが元気になれば、静岡が、日本が元気になります。病気と闘っている子が元気になれば治療に関わった人は10倍元気になる、そのことを経験したからです。

医師を目指している諸君。医師になるにはここからもう一踏ん張りが必要です。が、このセミナーに参加している君たちならきっとできます。数年後、一緒に仕事をする日が来るのを願ってエールを送ります。

頑張れ、この国の未来の医療を担う未来達！



院長 坂本 喜三郎



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

静岡県立総合病院

院長 井上 達秀 先生 からのメッセージ

四国の田舎の県立高校に通っていた私は、「医師とは」「医学部とは」に関する情報が得られず具体的なイメージがわからないまま医学部に入学していました。そのような状況でも医師は人々の健康維持に直接関与し社会貢献できる職業であると理解していました。

したがって、私は医学部入学後に「医師とは」について考えるようになりました。ともに考えて行動する友人を得て、山登り等で体を鍛えなおし、哲学、物理をともに深く学習することで「人間」「生命」について理解を深めました。幸いなことに志の高い友に恵まれ幸運でした。

このように、友との出会い、師との出会い、文献との出会いにより、世界は広がり医師になるという意識は高まっていきました。さらに医師を育てるのに最も大きな影響を与えるのは、患者さんとの出会いです。医師として臨床の現場に立つ限り、これは一生続きます。基礎研究者になったとしても常に患者さんの顔が浮かぶかと思います。

超高齢化社会を迎えた日本では、ライフステージ別の最適な医療提供体制が構築されてきています。遺伝因子、環境因子の解析が飛躍的に進歩して、疾患の発症そのものを抑制する先制医療が発達してきています。さらに、遺伝子治療が実用化されるなど、医学の進歩には目を見張るものがあります。医療界に志の高い若者が増えることを期待します。



院長 井上 達秀



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

静岡県立こころの医療センター

院長 大橋 裕 先生 からのメッセージ

医師を目指す皆さんへ ～こころを診るということ～

この冊子を手になさった皆さんは、医師という職業に少なからず興味を抱かれていますのだと思います。今日は、私が専攻する精神医学をアピールさせて下さい。

こころの在り処とは？言うまでもなく、それは heart（胸の内）でなく brain（脳の活動）です。ヒトの脳は百数十億個の神経細胞からなり、神経細胞同士の複雑なネットワークが思考や感情を生み出して伝えています。精神医学とは脳科学なのです。うつ病、パニック障害、PTSDといったメンタル不調の発病メカニズムを探してこれと対峙するという「未知の領域である脳を知り、脳を守る」仕事は刺激的な魅力に溢れています。

一方で、精神疾患は慢性の経過をとることが殆どで、精神科医は時として、患者さんの人生も治療対象にすることを求められます。社会的スティグマにもなり得る精神疾患を挟んで患者さんに寄り添い続けること、それは、優しい献身です。

精神科医という職業は、このように相反する側面を持っています。「もっと知ってみたい」とそそられませんか？探求心と人間愛を持ち合わせた若者が私たちの仲間になって下さることをお待ちしております。



院長 大橋 裕



焼津市立総合病院

病院長 風間 伸介 先生からのメッセージ

医師を目指している高校生の皆さんへ

医師を目指す場合には、医学部への進学が必要となるため、皆さんは友人より少し早く自分の将来について考え、進路を選択することになります。医師を志す理由は人それぞれでしょう。しかし、私自身も医師を目指し医師として歩んできた一人として、皆さんが同じ道を志していることを大変うれしく思います。

現在、私たちは新型コロナウイルス感染症という未曾有のパンデミックを乗り越え、新たな時代を迎えています。一方で、少子高齢化などの社会課題にも直面しています。また、医学の分野においても技術の進歩は目覚ましく、外科手術ではロボットが活用され、診断や治療の場面ではAIが大きな役割を担うようになりました。しかし、どれほど時代が変化しても、人の健康と命を支える医師の存在は欠かすことができません。

皆さんは今、医学部受験という大きな壁に挑戦しています。決して容易な道ではありませんが、その先には大きなやりがいと社会への貢献があります。ぜひ目標に向かって日々努力を重ねていきましょう。また、医療において最も大切なのは、医師と患者との信頼関係です。人の気持ちに寄り添う優しさを持ってください。皆さんが強い意志とたゆまぬ努力、そして優しい心を持って、医師への道を歩んでいかれることを心から期待しています。



病院長 風間 伸介



藤枝市立総合病院

院長 中村 利夫 先生 からのメッセージ

医師という進路について考え始めた高校生の皆さんに、少し先の未来のことをお伝えしたいと思います。皆さんの多くはきっと「自分は医師に向いているのだろうか」と悩まれると思います。しかし、最初から「完璧に向いている人」などいません。大切なのは、判断が難しいと感じる時に、それでも続けたいと思える理由を自分の中に持てるかどうかです。

医師になろうと思ったきっかけは、どんなに小さくても構いません。ドラマやマンガで知った医療現場への関心、身近な人の病気の経験、あるいは単に理科や生物が好きという理由など、何でもいいんです。その小さな種を大事に育て、途中で迷いながらも考え続けることが、結果として良い医師への第一歩になります。

進路に迷う高校生の皆さんにとって、将来の仕事の一つに絞るのは簡単なことではないと思います。実際、医師の仕事は決して楽ではありません。勤務時間が不規則になることもあり、急患対応で夜間や休日に呼び出されることもあります。責任が重い分、精神的な負担を感じる場面もあるでしょう。人の役に立ちたい、知識と技術で目の前の人を支えたいという思いが、自分の中に持ち続けられるかどうか大切になります。その気持ちがあれば、つらい場面を乗り越える力になります。

そしてもう一つ皆さんにアドバイスをするとしたら、医師を目指したいと思ったときには、自分の気持ちを言葉にして、ご家族としっかり話し合ってみることです。「医師になる、かも?」と言ってみただけでもいいんです。きっとご家族も一緒に考えてくれると思います。医師を目指す決めることは、皆さん自身の人生の選択であると同時に、ご家族の生活にも影響する大きな決断でもあります。長い受験勉強、大学在学中の生活、卒業後の勤務形態など、時間的にも経済的にもご家族に負担のかかることがあります。医師という仕事の良い面だけでなく、大変な面も一緒に話し合い、家族として支え合えるかどうかを考えることが、将来の自分を守ることに繋がります。

最後にお伝えしたいのは、高校生の今の時点で「完璧な答え」を出す必要はないということです。大切なのは、自分はどんな時にやりがいを感じるのか、人のためにどんな形で力を尽くしたいのかを、少しずつ言葉にしていけることです。その答えの一つとして、「医師になる」という道をぜひ選択肢に入れてみてください。

将来、静岡県のごく一部の医療の現場で皆さんと肩を並べ、患者さんを支え合える日が来ることを、心から楽しみにしています。



院長 中村 利夫



島田市立総合医療センター

院長 和田 英俊 先生 からのメッセージ

医師を目指す高校生の皆さんへ

静岡県の地域医療を支える病院の院長として、医学部を目指して努力している皆さんに、心からエールを送ります。

現在の医療現場では、AIを活用した診断支援やオンライン診療が広がり、医療は大きな変化の時代を迎えています。一方で、高齢化の進行や地域での医師不足、災害医療への備えなど、地域医療に求められる役割はますます大きくなっています。そんな時代だからこそ、患者さんの不安に寄り添い、相手の気持ちを理解できる医師の存在が何より大切です。どれほど技術が進歩しても、人を支える最後の力は「人の温かさ」だと、日々の診療の中で実感しています。

受験勉強は決して平坦な道ではありません。努力しても思うような結果が出ず、不安や焦りを感じることもあるでしょう。しかし、その経験は将来、患者さんの苦しみや悩みに共感できる力につながります。医師になってからも学び続ける毎日ですが、高校時代に培った粘り強さや挑戦する姿勢は、必ず大きな財産になります。

どうか「なぜ医師を目指したいのか」という初心を大切にしてください。その思いが、厳しい壁を乗り越える支えになります。そして、今の努力は、いつか地域の誰かの命や安心を守る力になります。

皆さんが将来、地域の患者さんに信頼される医師として活躍される日を、心から楽しみにしています。



院長 和田 英俊



市立御前崎総合病院

病院長 鈴木 基裕 先生 からのメッセージ

皆さんが今夢中なことは何ですか？

皆さんが夢中なことは、勉強？または部活や恋に夢中！という方もいるでしょう。医師を志す皆さんは、勉学に励むことも大事ですが、趣味や社会活動、友人との交流など様々な経験を通じて「人としての経験値」を高めてもらいたいと思います。

私が医師になってから数多くの医師と仕事をしてきました。「この先生は素晴らしいな」と思う方の共通点は、医学的な知識だけでなく人間力の高さであると思います。これは、独善的でなく相手のことを考えて対応ができる能力の高さと言えます。そんな先生にお話を伺うと仕事以外の趣味を大事にしていたり、様々な社会活動に参加している方が多いようです。人生における経験という引き出しの多さが人の器を広げ将来の皆さんの財産となるはずです。小さな頃に言われたことがありますか？「よく学びよく遊べ！」これは真実であり人を相手にする職業の医師にとって金言だと最近実感しています。

当院は、地の利を生かしてマリンスポーツや釣りを楽しむ職員が多数在籍し、院内の中庭でアニマルセラピーを兼ねてヤギによる除草活動に取り組み患者さんや職員の癒しにもなっています。

医学を志す学生の皆さん、たくさん学び、よく遊び、人間力を育んでください。いつの日か皆さんと一緒に御前崎で地域医療を支えることができることを望んでいます。



病院長 鈴木 基裕



菊川市家庭医療センター

センター長 松田 真和 先生 からのメッセージ

「医師になる、その先へ」

あなたの夢は何ですか。

私の夢は、世界が平和であること、そして、そのために自分も貢献することです。その夢に近づくために、私は医師になる道を選びました。

まずは、身近な人や自分が暮らす地域を大切にしたい。そこから生まれた幸せが少しずつ周囲へ広がり、世界の平和につながっていくと考えています。そのような思いで、自分の特性や強み、社会から求められる役割を重ねながら、現在は家庭医療・地域医療に取り組んでいます。

医師になることは、病気を治すための知識や技術を身につけることだけではありません。目の前の人の生活や人生に関心を持ち、その人や家族、地域とともに歩むことでもあります。医師は、地域を支える存在のようにも見えますが、実際には、地域の人々に育ててもらいながら、よりよい未来を一緒につくろうとする仕事だと感じています。

志は、最初から完成しているものではありません。人との出会いや経験、迷いや失敗を通して、少しずつ育ち、時には形を変えていくものです。自分自身への問いを持ち続けることが、あなたの学びを支え、これから進んでいく道を照らしてくれると思います。

あなたは、何を大切にし、どんな自分になって、これからを生きていきたいですか。



センター長 松田 真和



掛川市・袋井市病院企業団立

中東遠総合医療センター

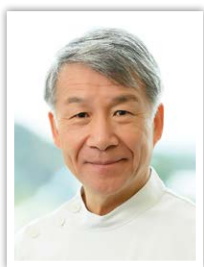
企業長 宮地 正彦 先生からのメッセージ

「医師になる」ことは、夢や理想を追い求め、努力し、進歩し続け、高みを目指す人になることです。人のため、そして自分のためにいいことをしたいと思い、切磋琢磨することが望まれる、切磋琢磨したくなる職業です。

切磋琢磨するためには、自分一人の努力だけではできません。他者と接することが大切です。手を洗うとき、片手だけではなく、もう一方の手もきれになります。人が成長するためには、他者や問題との絶え間ない接し合いが必要です。私たち医師は患者さん、病気と真摯に向き合うことで、己が鍛えられます。だから、つらいこともあります。頑張ったからといっても、いつもいい結果が得られるわけではありません。つらい思いをし、経験を積み、知識を身に付け、さらなる高みを目指します。患者さんが元気になって微笑みかけてくれる顔を見たくて、また勉強して、いい医師になろうと努力したくなります。また感謝されることが新たな活力を生みます。医師として、人として、常に成長を求められる職業だからこそ、大変やりがいがあります。

医師にはさらなる可能性があります。悩める人を直接治療することができる以外に、研究し、その結果で多くの人たちを助けることもできます。また医療を知った上で起業し、機器やシステムを開発することでも人々を助けられます。

医師になるための適性はあるのでしょうか。そのような適性はありません。自分になりたいと思い、やり続けたら、適性があつたのだと思います。医師の可能性はとても広いです。医師への道に足を踏み出してみませんか。目の前に広がっていることに気付くでしょう、君を惹きつけてやまない可能性が。



企業長 宮地 正彦



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

袋井市立聖隷袋井市民病院

病院長 林 泰広 先生 からのメッセージ

医師を目指す高校生の皆さんへ

医師という職業に興味を持ち、この冊子を手にとってくださった皆さんに心からエールを送ります。

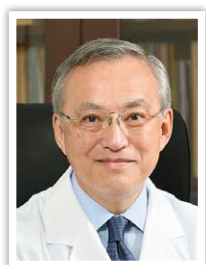
医師の仕事は病気を診断し治療することだけではありません。患者さんやご家族の不安に寄り添い、その人らしい生活を支えることも大切な役割です。そのためには医学的な知識や技術だけでなく、人の話に耳を傾け、相手を思いやる心が求められます。

私は長年、医療事故や医療安全の分野に携わってきました。その経験から強く感じているのは、「医療において最も危険なのは、分からないことではなく、分からないことに気づかないこと」です。自分は分かっていると思い込むことが、時に大きな危険につながります。

だからこそ医師には、自分の限界を知り、他者の意見に耳を傾ける謙虚さと、生涯にわたり学び続ける姿勢が欠かせません。患者さんや医療スタッフから学び続けることが、信頼される医師への第一歩だと思います。

高校時代には勉強だけでなく、さまざまな経験を積んでください。その経験は、将来患者さんの気持ちを理解する力につながります。

医師への道は決して平坦ではありません。しかし、人の人生に寄り添い、地域社会に貢献できる大変やりがいのある仕事です。皆さんの中から、地域医療を支え、人々から信頼される医師が育ってくれることを心から願っています。



病院長 林 泰広



独立行政法人 労働者健康安全機構

浜松ろうさい病院

院長 江川 裕人 先生 からのメッセージ

医師を目指す高校生の皆さんへ

医師という職業は、受験最難関の医学部に入学し6年間の座学と実習を経て国家試験に合格し、医師免許を取得した後も認定医・専門医の取得と維持という資格だけでなく生涯にわたって研鑽（けんさん）を積んでいくことが求められます。言い換えると生涯にわたって成長し続けることができる職業です。これはプロフェッショナルとして、どの職業においても同じことだと思います。

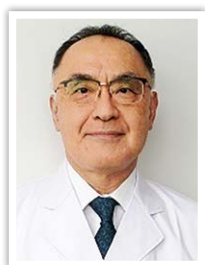
今、君たちが取り組んでいる受験勉強は医学部入学のためだけに役立つものではありません。まずは課題に向かう集中力と根気を養います。さらに、病気は教科書通りには現れません。目の前の患者さんの様子を深く掘り下げて、解決方法を導き出す思考力が必要です。高校生の君達で言えば、数学と物理が掘り下げる思考力を養ってくれます。ただし、公式を当てはめる考え方では役に立ちません。原理・定理から組み立てる訓練が必要です。

また、心が柔らかない高校生の時にこそ、多種多様なパーソナリティに寄り添える人間力を養っていただきたい。それには普段の友人との付き合いを大切にして、様々なジャンルの本を読むことにより心を耕すことが大切です。

今後、日本では高齢化が進むにつれて医師に求められるスキルが変化していきます。平成までは臓器・疾患別専門医がもてはやされましたが、高齢化が進む社会では単臓器専門医の活躍の場が少なくなっていくでしょう。病気や臓器だけを診るのではなく、人を観ることこそ医師の役目になります。

浜松ろうさい病院の理念である「ヒューマニズムとアカデミズム」は医療者に求められる根本原理です。実は、これは仏教が大切にしている言葉である「慈悲（じい）と智慧（ちゐ）」です。つまり医師として生涯を研鑽することは人として最高の高みに上がることです。

皆さん、お待ちしております。



院長 江川 裕人



日本赤十字社

浜松赤十字病院

院長 俵原 敬 先生からのメッセージ

医師を目指す皆さんへ

アンリ・デュナン（Henri Dunant）は、赤十字運動の創設者であり、1901年に第1回のノーベル平和賞を受賞したスイス人実業家・人道活動家です。1859年6月デュナンは北イタリアのソルフェリーノを訪れ、そこで約4万人の死傷者を出した「ソルフェリーノの戦い」の悲惨な光景を目の当たりにします。負傷兵たちは十分な治療を受けられず、戦場に放置されていました。デュナンは地元住民と敵味方の区別なく救護活動を行いました。そのことがきっかけとなり1863年国際赤十字が始まったわけです。

日本赤十字社は、2027年5月に創立150周年を迎えます。前身である「博愛社」が1877年（明治10年）5月1日に、佐野常民らによって設立されたことを起点としています。赤十字の先人たちは『苦しんでいる人を救いたい』という思いを受け継ぎ、人間のいのちと健康、尊厳を守るために歩み続けています。

医者を目指す動機はなんでも良いのだと考えています。アンリ・デュナンや佐野常民らのような崇高な目的で医師を目指していただければ、それに越したことはありませんが『苦しんでいる人を救いたい』単純にそういうことで良いと思っています。

現在、医者になって40年以上経ちましたが、いまではこの職業を選んで本当に良かったと思っています。私は循環器内科医です。急性心筋梗塞や重症心不全など重篤な疾患で死にそうになって病院に搬送された患者さんが治療後退院するときに本人および家族から非常に感謝されます。それはいつも本当に大変嬉しいことでした。

ただ医師を目指す若い方々には「いつもプロフェッショナルとしての覚悟は必要です」と言っています。そもそもプロフェッショナリズムとは専門家としての精神を指す言葉で、しばしば医学者や医学教育で用いられ、人間の命を預かる専門的能力とモラルが求められることを意味しています。高度で専門的能力が要請される仕事を遂行し、能力のみならず誠実に倫理を守って社会や人間に貢献していくことが求められるのです。そして能力の研鑽、つまり進歩する医学に対しての勉強は一生続きます。それは、甘えに陥ることなく、自らのミッションに基づいてプロフェッショナリズムの発揮が要請されているということです。

本当に医師になりたい方は覚悟を決めて医師になることを目指してください。私の座右の銘です。Where there's a will, there's a way. 皆さんが医師になり活躍されることを願っています。



院長 俵原 敬



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

総合病院 聖隷浜松病院

院長 岡 俊明 先生からのメッセージ

医師という仕事の魅力は何でしょうか。そう尋ねられたら、私は「人の人生に深く関わりながら、生涯にわたって成長し続けられる仕事だから」と答えます。

医療は日々進歩しています。近年ではAIなどの新しい技術が医療現場にも取り入れられていますが、患者さんの不安に寄り添い、その人にとって最善の医療を考えるという医師の役割は変わりません。人と向き合い、その力になれることこそが医師の大きなやりがいです。

もちろん、医師になるためには多くの努力が必要です。学び続けることや責任の重さに悩むこともあります。しかし、目の前の患者さんに少しでも良くなってほしいという思いが、私たちを支えています。これは特別な才能ではなく、人を思いやる自然な気持ちの延長線上にあるものです。

また、現代の医療は医師一人で成り立つものではありません。看護師や薬剤師をはじめ、多くの医療専門職が協力しながら患者さんを支えています。同じ目標に向かって力を合わせ、地域の人々の健康と暮らしを守ることも医療の大切な役割です。

医師の魅力は言葉だけでは伝えきれません。皆さんが将来医療の現場に立ち、自らそのやりがいや喜びを感じていただければと思います。いつの日か、医療を担う仲間として皆さんと出会えることを楽しみにしています。夢に向かって挑戦を続けてください。



院長 岡 俊明



浜松市国民健康保険

佐久間病院

病院長 三枝 智宏 先生 からのメッセージ

私の勤務する佐久間病院はいわゆるへき地病院です。この冊子への執筆にあたり良い機会だと思って考えてみました。へき地医療のどこが楽しいのでしょうか。

私が佐久間で医療をやっていて楽しいのは、病院の中に留まらず外に出ていけること。病院なので入院・外来患者を診るのですが、医療資源の少ないへき地ではそれに留まらず、附属診療所や無医地区の巡回診療、在宅訪問診療、介護施設での診療、学校医や企業の産業医としての活動、保健師との健康づくり事業など、いろいろな役割で外に出て、豊かな自然の中で季節を感じることができるのです。そしてそこではいろいろな出会いがあります。お家で療養する人や介護・福祉の従事者ばかりでなく、元気なお年寄り、元気な若者とも関わることができます。1日として同じ日はなく多様な日々を過ごしています。

なので、専門を突き詰めて行こうという医師にとっては、専門外の診療を行うことは不安でしょうし、へき地医療はつまらないかもしれません。決して誰もが楽しく感じるものではないでしょう。でも、自然を感じ、地域の人と関わる体験は心のリフレッシュにもつながります。

皆さんも医師になって医療を続ける中で少しでもそんな体験がしたくなったら、短期間でもよいのでへき地医療を経験してみませんか。



病院長 三枝 智宏



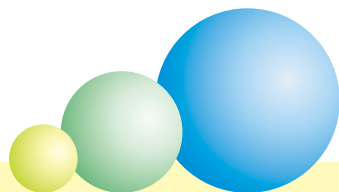
医師になるための道・医師としての道

医師になるには、まず大学の医学科へ入学し、6年間にわたって専門的な知識や技能を修めます。そして、毎年春に行われる医師国家試験に合格し、医師免許を取得することが必要です。

医師免許を取得したら、病院に勤務しながら2年間にわたって初期研修を受けます。この研修では、先輩医師の指導の下で、内科・救急・外科・小児科といった様々な診療科の経験を積みます。医師としての基本的な診療能力を身に付けるとともに、自分の適性に合った将来の進路を決める2年間です。

では、「適性に合った進路」とは、どういうことでしょうか。実は医師の活躍の場は、とても広いのです。初期研修を終えると、多くの医師は病院において専門性をさらに高めるための研修を受けます。一方で、患者さんを直接診療しない職場を選択する医師もいます。例えば、大学や研究機関において基礎研究に取り組む医師、保健所などで医療行政を担う医師など様々です。

医師は、自分の適性に合った生き方を選択できます。ただし、その前提として、単に医学の知識や技能だけでなく、高い倫理性と豊かな人間性も身に付けることが求められます。志を定めるにあたって、そのことを是非理解してください。





大学医学科における学習の目標 (1)

では、医師になるために進学する全国の大学医学科では何を学び、どのような能力を修めるのでしょうか。医学生が卒業時に到達すべき目標を示したものとして、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」があります。このカリキュラムは、次ページに示す10の実践的能力を修めることを求めています。ここではそのうち、「3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢」と「8. コミュニケーション能力」について解説します。

まず、「生涯にわたって共に学ぶ姿勢」についてです。医療は日進月歩です。患者さんに最良の医療を提供するために、医師は最新の医学知識や技能を学び続けなければなりません。そこで、大学の六年間では、医師として生涯学び続けるための「学び方」を修めます。学ぶことは喜びを生みます。大学教育を通して、学び方を身に付けて欲しいと思います。

次に、「コミュニケーション能力」についてです。医師に求められるコミュニケーション能力は、日常生活での会話よりも遙かに高いものです。相手の意図や感情、考えを理解・尊重した上で、自分の考えを相手へ効果的に伝える工夫や配慮ができることが求められます。医療安全を確保し、また患者さんやその家族が満足する医療を提供するためには、こうした能力がとても重要なのです。

皆さんは、この二つの能力の修得だけでも大変だと感じるかもしれませんが、でも、怖じ気づくことはありません。チャレンジ精神を持って大学の先生方から指導を受ければ、きっと先輩たちのように大きく成長できますよ。



大学医学科における学習の目標 (2)

医学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版を意訳)

1. PR: プロフェッショナリズム (Professionalism)

- 医師には人命や健康を守る責任があります。
- 多様性・人間性を尊重した上で患者さん中心の医療を行いつつ、常にプロであるための努力を続けていきます。

2. GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢 (Generalism)

- 患者さんが抱えている問題を特定の臓器にとらわれずに、心理的や社会的な背景も踏まえて総合的に判断をします。
- 患者さんの希望によっては医師としての専門領域を超えた診療も行い、個人だけでなく社会全体の幸福や生活の質の向上と持続可能な発展に貢献していきます。

3. LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (Lifelong Learning)

- 安全で質の高い医療を提供するために、常に自分自身をかえりみて、他の医師や医療従事者とともにスキルを磨きます。
- 生涯にわたり医師として自ら積極的に学び続けていきます。

4. RE: 科学的探究 (Research)

- 医学・医療の発展に欠かせない医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身につけます。
- 学術・研究活動にも積極的に関わり新たな医学の創造に貢献します。

5. PS: 専門知識に基づいた問題解決能力 (Problem Solving)

- 医学や関連する学問の知識を身につけます。
- 根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら、患者さんの抱える問題を解決します。

6. IT: 情報・科学技術を活かす能力 (Information Technology)

- 発展を続ける情報化社会を理解します。
- 人工知能などの情報・科学技術についての理解を深め、適切に使用して医学研究や医療に活かします。

7. CS: 患者ケアのための診療技能 (Clinical Skills)

- 患者さんの痛みや不安に寄り添います。
- 患者さん中心の診療を実践するために、信頼される確実な診療技術を磨きます。

8. CM: コミュニケーション能力 (Communication)

- 患者さんや患者さんに関わる人たちと、相手の状況を考慮して良好な関係を築きます。
- 患者さんの意思を尊重・支援して安全で質の高い医療を提供します。

9. IP: 多職種連携能力 (Interprofessional Collaboration)

- 医療・保健・福祉・介護など、患者さんとそのご家族に関わるすべての人の役割を理解して、互いに良好な関係を築きます。
- 患者さんにご家族、地域の課題を、関わるすべての人と共有して、ともに課題解決に取り組めます。

10. SO: 社会における医療の役割の理解 (Medicine in Society)

- 医療は社会の一部という認識のもと、経済的な観点、地域性の視点、国際的な視野を持ちます。
- 公正な医療を提供して、人々の健康を守る立場として公衆衛生の向上に努めます。



我が国の医療の課題

ここでは視点を変え、我が国の医療が抱える課題を説明します。

我が国の平均寿命は、男女総合で 84.1 歳です。先進国の集まりである OECD（経済協力開発機構）加盟国の平均 81.1 歳と比べて長寿です。こうしたことから、日本の医療は世界から高い評価を受けています。その一方で医師の数は、OECD の平均値の約 3 分の 2 であり、とても少ないことが分かります。これまで我が国では医師をはじめとする医療スタッフの懸命の働きによって、世界に冠たる水準の医療が提供されてきたのです。

しかし、我が国の将来のことを考えると不安です。今後、高齢者の人口が増え、それに伴って医療需要は続伸すると予想されています。これに対し、医師数を急激に増やすことは、現実的には難しいことです（OECD 平均まで増やすには、新たに 10 万人以上の医師が必要です）。そこで、我が国では、高齢化が進む社会においても安心して医療を受け続けることができるように、医療の新しい仕組みを築くことが急務になっています。こうした課題解決のため、医療機関は連携を密にし、さらに医療と介護を総合的に提供する取り組みづくりを始めています。

	日 本	OECD 平均
平均寿命	84.1 歳	81.1 歳
医 師 数	人口 1,000人あたり2.65 人	人口 1,000人あたり3.9 人

（出典：Health at a Glance 2023:OECD Indicators）



静岡県の医療の現状 (1)

我が国の医療の課題がわかりましたね。次に、私たちが住む静岡県の医療の現状をみていきましょう。

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことを「健康寿命」と言います。静岡県は下の表に示すとおり、長寿国である我が国の中でも健康寿命が男女とも上位に位置しています。その一方で、医師数は全国平均を大幅に下回り、2024 年の調査結果によると全国平均の 89.3%にとどまっています。静岡県は医師が少ない県であることがわかります。

	データ年	静岡県	全国順位（降順）
人口（総務省人口推計）	2024 年	353 万人	10 位
一人当たりの 県民所得	2023 年	382 万円	4 位
健康寿命	2022 年	男 73.75 歳 女 76.68 歳	男 1 位 女 1 位
人口 10 万人当たりの 医療施設従事医師数	2024 年	239 人	39 位





静岡県の医療の現状 (2)

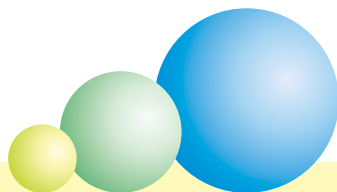
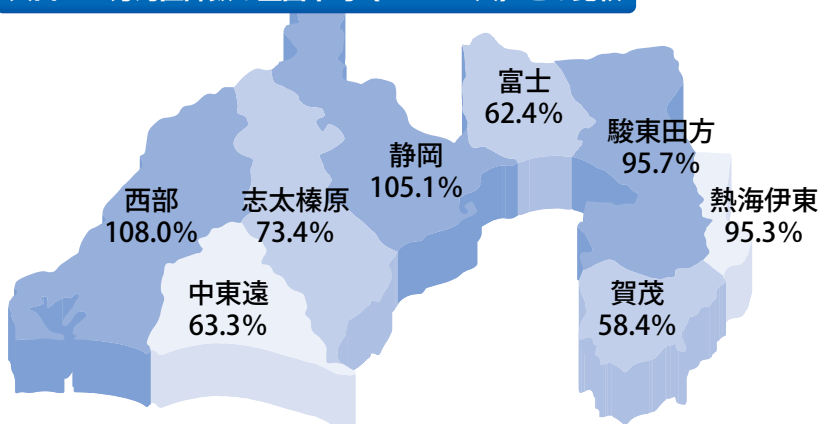
ここで県内を二次医療圏別の医師数で比較してみましょう。駿東田方、静岡、西部では全国平均に近い数の医師が従事していますが、賀茂、富士、中東遠においては、全国平均に対し70%未満にとどまっています。

このように全体的に医師数が少ないとともに、地域偏在も見られるのが静岡県の特徴です。

安心して暮らせる地域として発展し続けるために、医療は欠かせません。

この冊子を手にとってくださった皆さんが、将来、静岡県で医師として活躍されることを心より願っています。

人口10万対医師数の全国平均(267.4人)との比較





静岡県で活躍したいみなさんへの支援

将来、医師として静岡県の地域医療に貢献するところざしを持つ皆さんの大学での修学を支援するため、静岡県では奨学金制度を整えています。

静岡県医学修学研修資金制度は、月額 20 万円の資金を修学中の 6 年間受けることができるものです。貸与された資金は、大学卒業後静岡県内の指定された公的病院等で一定期間勤務することで返済が免除されます。

医学部の修学期間は長く、私立大学では学費も高額になりますが、奨学金制度を上手に利用することで、家計の負担を減らしつつ、医師への道を歩むことができます。

制度の概要（医学科大学生の場合）

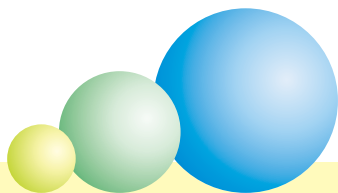
貸 与 期 間	6 年間（医学科の修学年限）
貸 与 額	月額 20 万円（6 年間）⇒ 1,440 万円
返 還 免 除 勤 務 期 間	貸与期間の 1.5 倍の期間 ⇒ 9 年間勤務 ※履行期限 貸与期間の 2 倍に 4 年を加えた期間 ⇒ 16 年間
勤務医療機関	静岡県内の公的医療機関等のうち、 県が指定する医療機関
診療科の指定	なし
出 身 地	限定なし

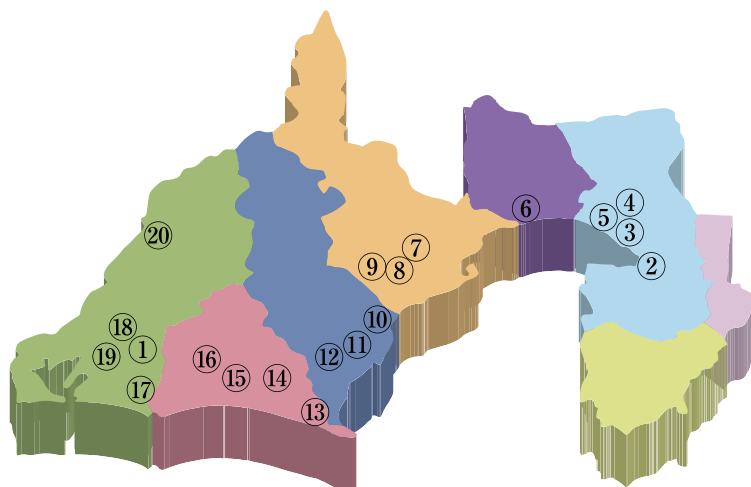


本小冊子を読んで ころざしの原点を記録しよう

医療機関の代表者からのメッセージや県内の医療の現状を読んでどう感じましたか？皆さんが将来を担う医師として学び、活躍していただけたら幸いです。

ここに皆さんのころざしの原点を記録してください。そして、受験勉強に追われて意志が揺らぎそうになった時には、この小冊子を取り出してください。きっと、自分が目指す人生を歩む勇気を与えてくれると思います。





メッセージ掲載病院一覧

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 浜松医科大学医学部附属病院 | ⑪ 藤枝市立総合病院 |
| ② 順天堂大学医学部附属静岡病院 | ⑫ 島田市立総合医療センター |
| ③ 静岡医療センター | ⑬ 市立御前崎総合病院 |
| ④ 静岡県立静岡がんセンター | ⑭ 菊川市家庭医療センター |
| ⑤ 沼津市立病院 | ⑮ 中東遠総合医療センター |
| ⑥ 富士市立中央病院 | ⑯ 袋井市立聖隷袋井市民病院 |
| ⑦ 静岡県立こども病院 | ⑰ 浜松ろうさい病院 |
| ⑧ 静岡県立総合病院 | ⑱ 浜松赤十字病院 |
| ⑨ 静岡県立こころの医療センター | ⑲ 総合病院聖隷浜松病院 |
| ⑩ 焼津市立総合病院 | ⑳ 浜松市国民健康保険佐久間病院 |

令和8年7月発行

編集/発行：国立大学法人 浜松医科大学 地域医療学講座

〒431-3192 浜松市中央区半田山1丁目20番1号 TEL:053-435-2060

静岡県健康福祉部医療局医療人材課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 TEL:054-221-2868



イベント情報などを掲載しています
 こころざし育成セミナー、先輩医師からの
 アドバイス、地域神大学の紹介など
 (静岡県地域医療支援センターHP)